

◎新版 法華經 方便品・自我偈講義

「仏法」は即「社会」です。諸法実相でいえば、仏法は「実相」であり、社会（世法）は「諸法」であるといえます。また「信心」は実相であり、「生活」は諸法であって、信心即生活が諸法実相です。

仏法は具体的な現実を離れてはありえません。

日蓮大聖人は、「一切世間の治生産業は、皆実相と相違背せず」との天台の言葉を通して、「智者とは、世間の法より外に仏法を行わず」（新 1968・全 1466）、「やがて世間の法が仏法の全体と釈せられて候」（新 2053・全 1597）等と仰せです。「やがて」とは「そのまま」という意味です。世法の姿が「そのまま」仏法なのです。現実の姿を離れて仏法の証明の場はないのです。

（『新版 法華經 方便品・自我偈講義』160 ページ）

◎全国最高協議会（2001 年 8 月 7 日）でのスピーチ

仏法は虚栄の伽藍の中にあるのではない。観念でもなければ、おとぎ話でもない。現実社会の中にある。

大聖人の仏法は、人間の中へ向かっていく。牧口先生、戸田先生も、悩める民衆のまっただなかで弘教を貫かれた。

人に尽くし、喜びをあたえる。幸福と勝利の花を咲かせる。社会に「正義の旗」を打ち立てる。ここに仏法がある。学会の前進がある。

（『池田大作全集』第 92 巻 444 ページ）